

第18回 原子力委員会定例会議 議事録

<日時> 1992年4月17日(金) 10:30から

<場所> 原子力委員会会議室

<議題>

- (1) 第2回原子力供給国会議の結果について
- (2) 旧ソ連の原子力発電安全に関する政府調査団の報告について
- (3) 原子燃料工業(株)東海製造所における核燃料物質の加工の事業の変更許可について(答申)
- (4) 大山委員長代理の海外出張について
- (5) その他

<審議事項>

- (1) 議事録の確認

事務局作成の第17回原子力委員会臨時会議議事録(案)が了承された。

- (2) 第2回原子力供給国会議の結果について

本年3月31日から4月3までの間、ワルシャワにおいて日本、米国、ロシア等ロンドン・ガイドライン参加国の全27カ国が参加して開催された原子力分野における輸出規制整備・強化の協議のための標記会合の結果について、外務省から資料2に基づき、原子力関連汎用品輸出規制の発足等について説明がなされた。

- (3) 旧ソ連の原子力発電安全に関する政府調査団の報告について

本年4月3日から10日までの間に行われた標記調査団の報告について、外務省、科学技術庁、資源エネルギー庁からレニングラード原子力発電所現状、今後の国際協力のあり方等について説明がなされた。

- (4) 原子燃料工業(株)東海製造所における核燃料物質の加工の事業の変更許可にて(答申)

平成4年2月12日付け3安(核規)第890号を持って諮問のあった上記の件に関する核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第16条第3項において準用する同法第14条第1項第1号及び第2号(経理的基礎に係る部分に限る。)に規定する基準の適用については妥当なもの認め、内閣総理大臣あて答申することを決定した。

注) 本件は、酸化ウラン粉末及び二酸化ウランペレット貯蔵量の増加に対応するため、原料貯蔵棚を増設し最大貯蔵能力を増加させると共

に、最大貯蔵能力22トンUの原料貯蔵棚を新設し、また燃料集合体貯蔵量の増加に対応するため貯蔵棚の一部を改造し、最大貯蔵能力を増加させること等を行うものである。

(5) 大山委員長代理の海外出張について

大山委員が1992年4月20日(月)から5月2日(土)までの13日間、韓国原子力産業会議の年次大会において講演を行うと共に、韓国及び中国において原子力関係者との意見交換及び原子力施設の視察等を行うため、海外出張する旨説明がなされ、了承された。